

石巻市立学校施設災害復旧整備計画  
(変更計画)【河北地区(大川小学校)】

平成28年11月

石巻市教育委員会

# 石巻市立学校施設災害復旧整備計画（変更計画）

## 【河北地区（大川小学校）】

### 1 これまでの経過と背景

東日本大震災で大きな津波被害を受けた小・中学校14施設のうち、平成24年3月策定の石巻市立学校施設災害復旧整備計画により、具体的な方向性が定められた施設については、復旧に向けた取組みを順次進めているところである。

その中で、大川小学校については、3細やかな指導が必要であることから、大川小学校は移転新築すること、地域の復興状況を見極めながら移転用地を選定することとしている。

しかし、同整備計画策定後に、大川地区の集団移転先が大谷地小学校通学区域の二子地区となったことや、現在の学級数・児童数についても、計画策定時の推計より大幅に下回っており、状況が大きく変わってきている。このため、教育委員会では、引き続き大川小学校の児童の心のケアに配慮しながら、大川小学校の今後のあり方について、改めて地域住民や保護者からの幅広い意見を伺った上で、整備計画を策定する必要があると判断し、平成27年10月から12月にかけて、地域住民及び大川小学校に在学している児童の保護者等へのアンケート調査を実施した。

アンケート結果については、地域の復興のために一刻も早い学校の移転新築を求める声もあった一方で、子どもたちの将来を第一に考え、近隣の小学校と統合し、大人数の中で切磋琢磨し、多様な意見に触れることで、社会性や人間性を培ってほしいという意見が多数寄せられた。

さらに、平成28年5月から10月にかけて開催した保護者や地域住民に対する説明会において出された意見等を考慮するとともに、大川小学校の今後の学級数や児童数の推計を踏まえ、次のとおり変更計画を策定することとした。

### 2 策定方針

平成24年3月に策定した石巻市立学校施設災害復旧整備計画は、「学校の適正規模」、「将来を見据えた教育環境の正常化」及び「安全を確保した学校の配置」の3点から検討を行っており、大川地区についても、同様の視点のほか、将来的な人口形成にも着目し検討を行うこととした。

### 3 大川小学校の現状について

大川小学校は、東日本大震災の津波で被災し、校舎は2階まで浸水し、体育館は流失した。また、大川小学校通学区域内のほとんどが非可住区域となった現状や、大川地区の集団移転地が大谷地小学校通学区域の二子地区となった状況を踏まえた場合、今後も児童数の増は見込めないものとなっている。実際に、計画策定時に見込んだ平成28年度の児童数は4学級44人であったが、平成28年5月現在においては6学級29人（震災による教員の加配がない場合は、複式学級の3学級）まで減少している。

現在、大川小学校は、二俣小学校敷地内に仮設校舎を設置して授業を行っており、校庭や体育館を二俣小学校と調整しながら使用するなど、十分な教育環境が確保できていない状況である。

#### 4 復旧整備計画（変更計画）

##### 《計画》

**平成30年4月に大川小学校を二俣小学校に統合して、二俣小学校の現校舎を使用する。**

##### 《説明》

###### 【学校の適正規模についての考察】

震災後における大川小学校の児童数の減少は、整備計画策定時の推計を上回っている。

平成28年度（5月現在）の学級数は、震災による教員の加配を受けているため6学級であるが、標準学級編成にすると3学級（1・2年、3・4年、5・6年）で複式学級が存在する規模となる。教員の加配がいつまで続くかは未定であり、以後平成34年度までの推計においても、標準学級編成では全学年1学級となる見込みは薄く、3～4学級で推移し、複式学級が存在する規模が継続する見込みである。

平成28年度（5月現在）の児童数は、29人となっている。二子地区への宅地供給、復興公営住宅整備により大川小学区の人口が増加する見込みは少なくなっており、以後平成34年度までの推計においても、30人程度で推移する見込みである。

一方、二俣小学校については、平成28年度（5月現在）の児童数が93人であり、以後平成34年度までの推計において90人～100人程度となり、各学年1学級で推移する見込みである。

このような状況の両校が統合することにより、学級数及び児童数が適正規模となるものではないが、大川小学校の複式学級が解消され、平成21年度に策定した「石巻市立小・中学校の適正規模・適正配置に関する基本方針」に掲げる「豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成」に向けた環境に近づけることができる。

###### 【将来を見据えた教育環境の正常化についての考察】

二俣小学校敷地内の仮設校舎での授業は、校舎・体育館・校庭（遊具含む）・プールなどの施設・設備面においても環境が十分に確保できていないため、その改善については、早急な対応が求められる。

また、大川小学校と二俣小学校の2校を統合した場合の児童数は、統合初年度となる平成30年度は7学級（特別支援学級を含む。）、115人となり、大川小学校の複式学級が解消されるとともに、二俣小学校の校舎に収容可能な規模が見込まれる。

###### 【安全を確保した学校の配置についての考察】

二俣小学校の校舎は、鉄筋コンクリート造2階建てである。旧北上川、新北上川の近くに位置しているものの、両河口部からは10km以上上流部にあり、津波

による浸水に対する安全性は確保されている。また、河川堤防の整備により更なる減災が図られるほか、緊急時の避難が行える地理的条件を備えている。

### 《今後の対応》

大川小学校は、平成29年度末まで二俣小学校敷地内仮設校舎等での授業を継続するとともに、その間、引き続き大川小学校と二俣小学校の学校間交流を行い、統合に向けた準備を進める。

### 《児童数及び学級数の長期見込み（平成28年5月現在）》

(大川小学校)

(単位：人)

年度	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
児童数[A]	29	28	29	28	26	30	32
学級数	6	4	4	4	3	4	4

(二俣小学校)

(単位：人)

年度	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
児童数[B]	93	87	86	90	92	89	102
学級数	7	7	7	6	6	6	6

※特別支援学級含む。

(大川小学校と二俣小学校が統合した場合の児童数及び学級数の見込み)

(単位：人)

年 度	H30	H31	H32	H33	H34
児童数 [A+B]	115	118	118	119	134
学 級 数	7	6	6	6	6

※特別支援学級含む。

(平成29年度以降の大川小学校の児童数及び学級数の見込み)

(単位：人)

平成29年度	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
児童数	5	5	3	5	6	4	28
学級数	1	1	1	1	1	1	4

※太枠は複式学級を示す。(以下同じ。)

平成30年度	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
児童数	5	5	5	3	5	6	29
学級数	1	1	1	1	1	1	4

平成31年度	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
児童数	5	5	5	5	3	5	28
学級数	1	1	1	1	1	1	4

平成32年度	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
児童数	3	5	5	5	5	3	26
学級数	1	1	1	1	1	1	3

平成33年度	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
児童数	7	3	5	5	5	5	30
学級数	1	1	1		1		4

平成34年度	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
児童数	7	7	3	5	5	5	32
学級数	1	1	1		1		4